



つどいの樹

第5号

～ 学ぶ会だより～

2021年9月1日発行



田んぼの水はどこから？

私の学校のある羽村市(東京都)には、多摩川に近い一番低い地域に「根がらみ前田んぼ」と呼ばれる水田地帯があります。今年も市民団体の「歴史散歩」で、この田んぼを歩きました。「この田んぼの水はどこから来るでしょう?」。これは、学校の子どもたちをここに連れてきても必ずする質問。田んぼのすぐ南は堤防で、そこを多摩川が流れていますから、この日も「多摩川」と答えが出ました。そこで「ではこの田んぼの面と、そこを流れる多摩川の水の面、どちらが高いですか?」。もちろん、田んぼの方が高い、そこで「水は1cm だって高いところには登りませんよ」と。よく見ると、この写真の水路だって、田んぼの面より低いところを流れています。さて、どうやって水を田んぼに引き込むのか?

*答えは11 ページに。

(写真・文: 福田恵一)



「東京 1940」・IOCは何をした？

安井 俊夫 （「学ぶ会」代表）

新型コロナによって「東京 2020」は根底から揺さぶられた。だが「1940 年オリンピック東京大会」（東京 1940）も、開催国日本による中国への侵略戦争（1937 年日中戦争）という深刻な事態の中へ追い込まれた。この事態に対して中国 IOC 委員である王正廷（駐米大使）は、IOC 総会に向けて電報をうった。「その国の軍部が平和な隣人に対して侵略的な戦争を仕掛けようとする国には、世界的なオリンピック大会の開催地としての価値はない」

確かに他国に対しては軍事力で蹂躪し、自国の首都では友好と協調を謳う平和の祭典、という構図はオリンピック理念の崩壊である。IOC は直ちに総会から勧告した。「大会開催までに中国との戦争が終結していなければ、IOC はもちろん、日本自身のためにも、大会の開催を断念した方がよい」

IOC は＜戦争か・オリンピックか＞と迫ってきた。IOC 会長ラトゥール（ベルギー）も書簡で「戦闘が続いていれば、多くの国が参加を見合わせるだろう」と、戦争停止を求めた。だが日本側組織委員会は戦争停止には動か（け）ず、日本政府は「国を挙げて戦時体制に備えているときに、オリンピックだけをやることは不可能だ」と、大会を返上。「東京 1940」は幻となって消えてしまった。（坂上康弘・高岡裕之編『幻の東京オリンピックとその時代』青弓社、2009 年を参照）

風のいろ 「東京 1940」・IOCは何をした？	安井 俊夫・・・2
今・学校で・教室で コロナ禍の社会で育つ中学生	平井 敦子・・・3
交流の広場 学ぶと“いま”が見えてくる	鳴海 加代子・・・4
大学のキャンパスから 庶民の活躍にほっとする教科書	宮平 真弥・・・5
歴史の窓 戦国時代の日本は、どんな世界と向き合っていたのか？	池 享・・・6
授業づくりの土おこし	
モノから学ぶ歴史 ③コーヒーカップの向こう側	瀬戸口 信一・・・7
ようこそ教科書の舞台裏へ	
アジア太平洋戦争への思い・その2 泰緬鉄道の跡を訪ねて	高嶋 道・・・8
学びを深める	
第5回 「自由権」をめぐる「自由に」意見を言い合う	菅間 正道・・・9
随想 連載⑤東学農民運動～もうひとつの日清戦争～	黒田 貴子・・・10
読者の声	・・・11
学ぶ会からのお知らせ	・・・12

コロナ禍の社会で育つ中学生

平井 敦子（北海道公立中学校教員）

コロナ禍2年目の日々

5月出発予定だった修学旅行は、直前の緊急事態宣言で延期になった。札幌でマラソンテスト大会を敢行した直後のことだ。翌週、再設定した日程を生徒に知らせる。「8月末出発になりました!」とプリントを配付すると即座に「ああ、だめだ…」と生徒からガッカリの声がもれる。「え?修学旅行実施するんだよ」と言うと「オリンピックの後ですよ、感染者増えるに決まっていますって」。

生徒達は、ずっと我慢してきた。陸上競技大会も合唱コンクールも、日々の全校集会もできない。部活動も制限下で十分な活動はできず、大会も無かった。でも感染症の拡大、医療関係者の負担などを知れば、我慢するしかないと受け容れて2年目になった。黙って指令に従うことが日常になりつつある。今年度は、制限はありつつも活動場が増えていた。そんな中での修学旅行延期だ。その日程すら「どうせオリンピックやるんでしょ」と、下手な期待をするのも無駄だとばかりに聞き流してしまい込む、そんな子どもになってしまった。この原稿を書いている時点（7月中旬）で、遂に緊急事態宣言下で東京オリンピックという最悪の事態を迎えている。1m距離あけて、黙って食べて、と生徒に我慢を強い続け、彼らの気力をそいできた日々が、子どもの根っこまで腐らせはしないかと心配だった。

前を向いてみんなで

それでも、子どもたちは学校生活をどうにか前向きに、頑張る日々をしたいのだ。生徒会役員は、生徒総会を学級間 ZOOM で実施することを決定。画面ごとに全学級の面々が向き合った。質問、意見を出し合い総会は無事に終了した。事前の通信状況の確認やリハーサルをしている時の役員たちは生き生きしていた。さらに、市内競技場で実施してきた陸上競技会ができないのなら、とグラウンドでの「学校体育の日」実施を決めた。本校のグラウンドは特殊な事情があって、雑草ぼうぼうの場所が多い。そのため体育委員会は、学級対抗雑草取り大会を企画。先日、学校体育の日で実施する長縄跳びやリレー、そ



して事前の雑草取り大会の作戦会議をする学級会が開かれた。誰が縄を回せばイけるのか、雑草取りの道具は何を使うか。「縄まわし大変なんだぞ、お前たちマジに死ぬほど跳べよ」とか「お前がクマデ持ったら危険だべや!」(笑)と真剣に楽しそうに身を乗り出して話し合っている生徒を見ると、本当に安心する。子どもたちの心の根っこは生きている。先生も頑張るぞ!

社会科を学び明日へ

授業は、公民的分野に入った。現代社会について家族や身近な大人の意見も取材し、SDGs の考え方や課題も学び、立憲主義の理念を学び、と「現代」と取っ組み合っている。その中で、日々のニュースに関心を持ち、新聞を読む課題を課している。廊下の新聞コーナーでは、休み時間に新聞を広げる生徒の姿がある。通りすぎる教師達と、記事について立ち話。生徒は気になるニュースを簡易レポートにして、ニュース掲示板に貼っている。掲示板のニュースコメントを見ながら、生徒同士、ああだこうだと会話する姿もある。「反日的な人が五輪反対」と元首相が述べたという記事を発見した生徒。「マジか、こいつヤバイ」「どういうこと?本気?」。東京オリンピック開催の可否を、教科書の指示どおり、効率と公正から分析したばかりだ。

このコロナ禍を実体験し、政治のあり方を真剣に考えて成長していく中学生がいる。彼らが未来を選択するということに、希望を託しながら、今日も「はい、密ですよお、離れてえ」と声をかけ続けている。



学ぶと“いま”が見えてくる

新日本婦人の会やまぶき班 歴史学習会(東京・練馬) 鳴海 加代子

1. はじまりは、沖縄の歴史を学ぶことから

新日本婦人の会(新婦人)の会合で、『ともに学ぶ人間の歴史』をもとに歴史を学びたい、という声があがりました。2018年の春のことでした。

今まで、やまぶき班では、ヨガ、絵手紙、新聞ちぎり絵、映画会などの活動をおこなってきました。歴史を学ぶなんて難しそう、という声もあったのですが、この教科書は沖縄のことを大切に取り上げているので、まずは沖縄の歴史を学ぼうということになりました。講師は会員で中学校の講師をしている黒田貴子さんです。

最初の「歴史と出会う」から始まって、沖縄に関連するページを読み合いながら基地問題まで4回かけて学びました。ついには、有志で沖縄の旅の計画を立てて、チビチリガマや平和の礎、基地の実態を見る沖縄の旅もおこないました。

2. 自分たちが学んできた歴史

なぜ、歴史が苦手なのかしら？自分たちの中学高校時代を振り返ってみると、歴史は暗記物だというイメージがありました。そして、近現代史を学んだという記憶がないことに気がつきました。史実をわからないままにして、今の政治がおこなわれているように思います。なぜこんな日本になってしまったのか、これからの日本はどう変わっていくのか、歴史を作っている今の私たちの生活を問い直したいと思いました。

3. この学習会の魅力は？

学習会は、会員以外の方にも呼びかけて、今年度は隔月におこなっています。沖縄の次は近代史を、地域の公民館で、1回2時間かけて、教科書を読み合い、質問や意見を出し合って進めています。時事問題について活発に話し合うこともあります。この写真の6月の学習会は都議選が近く、参加者が少なかったのですが、毎回5名～10名ほどでおこなっています。皆さんの感想を紹介します。

*沖縄の悲惨な歴史にいたった経緯、状況。本当のことを学びました。歴史は真実を教えてください。多感な中学時代に真実を学ぶことは大事だと思います。

*何歳になっても学ぶことは大事なことでと痛感しています。交代での教科書やプリントの音読ではつかえたり、声がうわずったり…。いまは家で『新婦人しんぶん』を読む時、声を出して読んでいます。それと、身支度をして出かけ、人に会うことも良いことだと…。

*問いかけられたことを考えることでより頭に入るのでですね。人々の姿をリアルに教えていただいて、歴史を学ぶってこんなに楽しく、これは未来に活かす勉強なんだと感じます。

*教科書は、いままで見たことのない詳しさと、大型の挿し絵や写真も見やすいです。手作りのプリントや絵本などの教材にも、楽しみながら心を揺さぶられています。

*娘が高校で1年かけて近現代史を学んでいたのを羨ましく思っていました。そんな私に学習会のお誘いが！この学習会で私の「近現代史のもやもや」が晴れていきます。

*「なぜ？」「どうして？」ということを考えながら、これからの道筋も見えてくるようなこの学習会が好きです。みんなでちゃんと学ぶことって楽しい。



大学の キャンパス から

庶民の活躍にほっとする教科書

宮平 真弥（流通経済大学教授）

昔の日本はひどかった？

私は法学部の専門科目である法制史を担当しており、『学び舎』教科書を使用している。毎回、授業終了後に感想・意見を提出させているが、読んでいく中で、気づかされることがある。一例を紹介しよう。

（ ）の数字は、『学び舎』2020年版教科書のページ数です。

政府による圧政・言論弾圧、侵略戦争、植民地化などを取り上げると、受講生から否定的な意見が提出されることが多い。例えば「教育勅語と御真影(175頁)」では、「深くお辞儀しなただけで教師を辞めさせられる等のめっちゃくちゃな天皇への忠誠がひどい」、「小学校教諭の柝内泰吉(とちないたいきち)は、天皇の写真を運び出すために波にさらわれて死亡した。写真より人の生命が軽いのか」といった意見がみられた。軍国主義や圧政について説明すると、「がっかりした」、「腹が立つ」、「昔の日本が嫌いになった」という意見が多くみられた。

産業を担い、民主主義を創造したのはだれか？

「工女は兵士に勝る(168頁)」では、「富岡製糸場で働く横田英(よこたえい)は、『工女の役割は兵士より大きい』と工場長に励まされた。横田は故郷の松代に帰って、製糸の技術を伝えた」という説明に対し、「私は長野出身で、松代の高校に通っていた。横田英のことを誇りに思う」、「多くの人の苦勞の末に今日の日本があると感じた」、「注目されずに頑張っている人を励ます工場長がいて安心した」、「ほっとする話だった」、「あらゆる業界の人々は素晴らしく、尊敬に値する」といった意見が提出された。

「昔一揆、いま演説会(170頁)」では、女性参政権を訴えた楠瀬喜多(くすのせきた)、女性演説家の岸田俊子に対して「政府の弾圧が厳しい時代に勇気がある」と絶賛する意見が多かった。

そして「問い」が生まれる

大半の中学校歴史教科書は「偉人」の活躍をつなげて歴史を描いているが、『学び舎』教科書は、以上のように横田英、楠瀬喜多、岸田俊子など、一般的には有名ではない人物を多数取り上げている。庶民の活躍について「安心した」「尊敬する」「彼らのおかげで今の日本がある」といった肯定的な意見が多かったことが印象的だ。「偉人」ではないからこそ身近に感じるし、「歴史の本当の主役はだれなのか」考えるきっかけになっている。

さらに、「本当に民衆憲法案が理想とする世の中になっているのか疑問」、「殖産興業のために農家の人々を犠牲にした。現代でも、非正規雇用や外国人労働者が多く、変わっていないのではないか」など、歴史を学びながら、現代の社会を問い直す意見も少なくない。「五日市憲法をつくった千葉卓三郎(ちばたくさぶろう)たちは、その時代当たり前だった死刑制度や男性だけが天皇になることに疑問を抱き、討論している。私は今ある常識やルールに疑うことなく従っていたので、『なぜ』と疑問を抱くことが重要だと感じた」という意見のように「問い」の重要性に気づく学生もいる。

私の授業では、今後同じ過ちを繰り返さないために、侵略戦争や圧政など、反省すべき出来事を取り上げているが、それだけだと、『自虐史観(じぎゃくしかん)』はいけない」と、過去をねじまげて美化する方向に進みかねない受講生も少なくない。『学び舎』教科書では、民主主義・人権といった今の時代にも通用する価値について、庶民の活躍を通じて学ぶことができる。多くの学生たちは、大事な価値を学べるからこそ、反省すべき出来事も受け入れることができていると考えられる。





戦国時代の日本は、どんな世界と向き合っていたのか？

池 享（コアアドバイザー・一橋大学名誉教授）

欧州との出会い？

表題のように聞かれたら、鉄砲伝来・ザビエル来日・南蛮貿易といった言葉を思い浮べ、日本人が初めて欧州と出会い高度な文化・文明に触れたが、鎖国により世界の進歩から取り残された、と答える人がまだ多いかもしれない。また、1年ほど前に NHK で放映された「戦国～激動の世界と日本」のサブタイトルは、「秘められた征服計画 織田信長×宣教師」・「ジャパンスルバーを獲得せよ 徳川家康×オランダ」で、欧州と日本の関わりが中心内容だった。

東アジアの激動

16～17 世紀の日本を取り巻く東アジア世界は、確かに激動のさなかにあった。しかしそれは、欧州勢力の到来のせいではなかった。出発点は、明王朝を頂点とする国際秩序の動揺だった。明は、属国の王（日本では將軍足利氏）の使節のみに朝貢として入国を許しており、貿易もそれに付随して行われた。中国産の生糸や陶磁器などは高品質で貿易は莫大な利益を生んだが、回賜（朝貢への返礼）の財政的負担から明は渡航を制限した。そのため関係者の不満が募り、1523（大永3）年には寧波で、大内氏と細川氏が派遣した船の乗員同士が、上陸の順番をめぐり乱闘騒ぎを起こしている。

これを機に明は貿易制限を強化したが、反発する商人たちは密貿易に走り、後期倭寇と呼ばれる中国人主導の集団が生まれた。北方では韃靼が活動を強め、明が辺境防衛に大量の軍隊を配備したため、軍需景気が引き起こされ貨幣である銀の需要が急増した。そこに石見銀山で爆発的大増産が起こり、生糸と銀を軸とする東アジア貿易は隆盛を極めた。

欧州勢力の参入と中国人の主導権

こうした状況下で、マラッカに進出していたポルトガル勢力が、倭寇の誘いに乗り新規参入してきた。1543（天文12）年に種子島に漂着したポルトガル人は、倭寇の拠点である双嶼（中国浙江省の舟山列島）

に行く途中で暴風雨に遭ったのであり、案内したのは後の倭寇の首領王直だった。

その後、王直は中国官憲の弾圧を逃れて拠点を平戸・五島に移し、ポルトガル船も入港先を平戸に定めた。王直は1559年に再度の弾圧で処刑されるが、その際ポルトガル勢力は中国官憲に協力し、マカオへの居住を認められた。しかし、それで彼らが中国人に替わり主導権を握ったわけではなかった。その後も数万人の中国人が日本に居住し、各地に「大唐街」を作っていた。彼らの元締めである李旦は、長崎と平戸を拠点に手広く東アジア貿易を展開し、後継者である鄭芝龍（鄭成功の父親）は、ジャンク 400 隻と 6～7 万人の兵員という大勢力を擁していた。



中国浙江省の舟山本島岑港にある平倭（倭寇討伐）碑

日本側の動き

室町幕府の弱体化や大内氏の滅亡などにより、朝貢貿易は 16 世紀半ばに終焉し、かわって毛利・大友・島津氏など西日本の戦国大名が、独自の東アジア外交・貿易を展開し自立性を強めた。新たな全国統一政権の樹立を目指す豊臣政権は、外交・貿易統制のためバテレン追放令や海賊停止令を発し、さらに明に替わって東アジアの覇権を握るべく「唐入り」＝朝鮮侵略を起こした。この試みは脆くも失敗し、後継の徳川政権は明・朝鮮との外交に苦勞させられ、朝鮮とは国交回復するが明には拒絶された。それを踏まえ、長崎（対オランダ・中国民間人）・対馬（対朝鮮）・薩摩（対琉球）・松前（対蝦夷）の「四つの口」を通じた外交・貿易体制が作られた。これにより、戦国大名の外交・貿易は徳川政権の下に再編成されることになった。このように、東アジア世界の中でどのような地位を占めるのかが、戦国時代の日本にとって最大の国際的課題だったのである。



モノから学ぶ歴史（子どもたちと学んだ世界地理の実践から）

③コーヒーカップの向こう側

瀬戸口 信一（元公立中学校教員）

◆コーヒーの香りを導入に！



歴史の表舞台で目立つことのないコーヒーだが、アフリカ大陸で発見されアラビアを起源にイスラム教全土へと広まった。16世紀になると栽培範囲も飲用文化も世界各地に広がり、現在世界70か国で生産され、2500万人の農民（関連産業を含めると1億人）がこれにより生計を立てている。「世界で1日20億杯飲まれている世界最大の商品作物は？」焙煎したコーヒーのにおいを教室に充満させ授業に入ろう。

◆エチオピアのコーヒー農園

「コーヒーの原産地エチオピアでコーヒーはどうやって作られているのかな？」ここからは、コーヒー畑の作業（収穫・果肉の除去・乾燥・コーヒーの選別・袋詰め・出荷など）の写真を見ながらコーヒーの生産現場をイメージ豊かに追体験させよう。

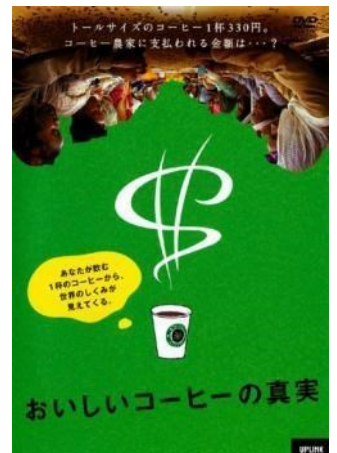
その後「エチオピアのコーヒー農民たちの暮らしは？」と問うと、「世界第2の貿易品だから農民も豊かなのでは？」と考える子もいる。「実際はどうか？」農民たちの証言を資料で読ませる。「子どもを学校へ行かせられない」「医療を受けられない」「栄養不良」などコーヒー農民の困窮な実態に子どもたちは衝撃を受ける。



◆貿易が貧困をつくる

ここまで来て「コーヒー生産国の経済も発展するはずなのに、そうっていないのはなぜ？」という疑問が生まれる。ここで「喫茶店のコーヒー1杯400円の中でエチオピアの農民の取り分はどれくらいだと思う？」と問うと、いろいろな数字が上がるが、「2円」の答えにあちこちから「ええっひどい！」と怒りの声…。

「残りの99.5%はだれのもの？」「コーヒーが収穫されてからどんなルートで私たちの手に届くの？」と子どもたちの追求が始まる。次に、映画『おいしいコーヒーの真実』（DVD）を見せると、子どもたちはネスレ社などの巨大焙煎企業が大きな利益をあげていることに驚く。



一方、コーヒー生産国の農家は零細経営で生産性が低いということ、焙煎工場など付加価値をつけるための資本がないこと、保存がきかないので売り控えできず市場価格が不安定になりがちだということ、その結果として努力しても農民の暮らしは常に不安定にならざるを得ないという実態を資料で読み取り、子どもたちはどうしたらこの問題を解決できるかを考え始める。

◆それでもコーヒーをつくり続ける農民たち

最後にまとめとして「それでもエチオピアの農民たちがコーヒーを作り続けるのはなぜか？」「消費者の私たちはどうしたらよいのか？」と追求をつなげたい。

すると、エチオピアの農民にとってコーヒーは特別な作物である事、それに代わる作物がない事に気づく。また、対等な立場で貿易を行うことを目的とした「フェアトレード」の運動が消費者運動として世界的に広がりつつあることにも触れたい。



アジア太平洋戦争への思い その2

泰緬鉄道跡を訪ねて

高嶋 道（元中学高校教員）

枕木の数だけ死者が出た

『戦場にかける橋』という古いアメリカの映画をご存じでしょうか。テーマ音楽の「クワイ河マーチ」は大ヒットしたので、お聞きになったことがあるでしょう。この映画はアジア太平洋戦争中、日本軍のタイ(泰)とビルマ(緬甸・現ミャンマー)を結ぶ鉄道建設が舞台です。タイのノンプラドックからミャンマーのタンビザヤまでの415 kmは東京から大垣間にあたります。教科書の第9章(8)「東南アジアの日本軍」にも泰緬鉄道のことが数行記載されていて、働かされる労務者の写真もあります。

実際は両端の地域に平地が少しあるくらいでほとんどが山岳地帯で、虎などの野獣が住む人跡未踏のジャングルでした。熱帯の暑さのなかで、大木の伐採、路盤の構築、岩山の掘削、運搬など、すべてが人手に頼る重労働でした。この強制労働を負わされたのが、東南アジア各地から送り込まれた二十数万人の労務者たちと6万人の連合軍捕虜たちでした。映画では、白人中心に描かれていて、アジア人の姿がほとんど描かれていません。

わずか1年3か月の工事で、「枕木の数だけ死者が出た」ため、「死の鉄路」とさえ言われています。食糧や医薬品が不足し、病人には食事が与えられませんでした。飢餓、疾病、重労働などで、捕虜1万3000人が死亡。30万人近い労務者は統計さえなく、半分以上が帰国していないと言われています。日本軍は鉄道隊を中心として、1万2000人参加していますが、軍属だった朝鮮人が捕虜監視の仕事に従事させられました。戦後捕虜虐待の責任を問われ、BC級戦犯として死刑にされた犠牲者が、この人たちです。また日本兵向けの慰安所に関する証言もあります。

なぜ、泰緬鉄道がつくられたのか

1941年12月8日に日本軍が始めたアジア太平洋戦争の緒戦は破竹の勢いで勝利し、開戦後3ヶ月で広大な地域を占領しました。しかし、翌年の6月ミッドウエーの海戦を機に制空海権を失っていました。そのため、当時ビルマ戦線の20万人の日本軍の補給にはシンガポールからラングーン間の海上ルート



に代わる陸路づくりが急務だったのです。いかなる犠牲を払っても短期間で建設することにしました。クワイ河に沿って岩山を削り、崖に橋をかけ、昼夜兼行で工事を進めました。

ヒントクは泰緬鉄道のなかでも、最大の難所で、岩山を迂回し、断崖にへばりつくように線路を通しました。また岩を爆破してノミで切り通しを作るなどの難工事が多く、捕虜たちは「ヘル・ファイヤーパス」(地獄の業火峠)と呼んだほどです。脚気、皮膚病、マラリア、赤痢などの重病が蔓延、治療はされずに死亡者が続出しました。

多くの犠牲によって信じがたいほどの短期間で完成した泰緬鉄道ですが、連合軍の空襲によって破壊され、ほとんど使えなくなってしまったのです。戦後はタイ側の一部を復興し、観光列車としてバンコクからナムトクまで一日2～3往復が運行されています。この鉄道に乗り、ナムトクからバスを使いジャングルに消えていった鉄道の跡を訪ねました。

カンチャンブリ戦争記念博物館(JEATH ミュージアム)は当時の捕虜収容所の小屋を復元したものです。床と柱は木で、屋根はニッパ椰子の葉です。雨漏りもします。毛布などの寝具もなく、横たわるだけのスペースしかありませんでした。当時の写真や物品、捕虜が密かに持ち出したスケッチなどが展示されています。この追体験は忘れられません。入り口に「許そう、しかし忘れまい」とあります。仏教国タイらしい深いことばです。

靖国神社の遊就館には泰緬鉄道に使われていた機関車が誇らしげに展示されています。戦争責任も戦後責任も果たさず、忘れているのは日本人だけではないでしょうか。



子ども・若者を主権者／市民に育てよう―「知憲」「学憲」のススメ 第5回 「自由権」をめぐる「自由に」意見を言い合う

菅間 正道 （自由の森学園高校校長）

「自由に」言い合う

本連載第一回で、私の憲法学習は、「人身の自由」と99条から入ると書いた。そのプロローグを受けて、授業は基本的人権の各論の学習に入る。今回はその一つ、「自由権」学習（精神の自由）のねらいとなかみの一端を紹介したいと思う。

ねらいは、憲法の人権規定を学ぶのはもちろんだが、それと同じくらい「自由に」自分の意見を言い合う、聞き合うことに重きを置く。なぜなら、多くの生徒の心に巣くう社会科の固定的イメージ——社会科で勉強することは教科書の黒ゴチック（要素知）を覚えること、要するに暗記だろ！——を具体的な授業場面で「学びほぐし（鶴見俊輔）」したいからだ。

知って、問いを持ち、思考して、表現する。その一連の過程そのものが社会を学ぶということなのである、と「お説教」ではなく伝えたい。そのためには、見解がわかれ、双方にゆさぶりをかけられる、立ち往生させられる教材と発問の提示がカギとなる。

「剣道授業拒否訴訟」を取り上げる

私も長い社会科教師歴の中で、いろいろな教材を扱ってきた。学校での儀式において「君が代」伴奏を強制させられた「ピアノ裁判」、あるいはビラ配りで逮捕された事件などは、拙著『はじめて学ぶ 憲法教室 第2巻 人の心に国は立ち入れない』でも取り上げた。他にも、三菱樹脂訴訟、靖国合祀訴訟、最近では「9条俳句訴訟」なども扱ったことがある。

以下ではそれら教材の一つ「剣道授業拒否訴訟」について、内容と論点を端折って説明する。「エホバの証人（＝ものみの塔聖書冊子協会）」を信仰する生徒が、入学先で課される体育の授業に剣道があり、それは同団体の教義に反するので受けられないとし、学校の方針と対立し、退学処分となる。裁判では、退学処分撤回と学校復帰をめぐって、生徒側が原告

となり、被告・学校側と争うこととなる。果たして生徒側と学校側のどちらの主張・対応が妥当なのか――。

議論することの面白さを

議論の入り口は、教師が大きく3つ選択肢を設定する（①原告が妥当、②被告が妥当、③N・A（ノー・アンサー わからない）。この論点に対し、日本国憲法20条「信教の自由」の読み解き、学校が舞台となっていることの身近さ、「公平」や「中立」などの抽象概念をどうとらえるかなどもあり、生徒の意見は分かれる。

大切なことは、裁判結果を「言い当て」、単に早く「正解」にたどり着くことではない。自分なりの考えをもち、それと他者の意見をすり合わせながら、「価値認識」をめぐって自由に意見を聞き合う、言い合うこと、それを通じて議論の面白さ、難しさを味わってほしい。数の多さは正しさと関係ないことや、議論とは相手を打ち負かすことではない、異なる意見にふれながら、自分の意見、認識を深めていくことのゆたかさを体感してほしいのである。小単元の最後に、有名なボルテールの次の言葉も紹介するが、これが、議論の面白さと併せて頭の片隅にずっと残っていてくれると嬉しい。

「私はあなたの意見には反対だ。しかし、あなたがそれを言う権利を、私は命に代えて守る」。



連載⑤ 東学農民運動～もうひとつの日清戦争～

黒田 貴子（中学校講師）

皆さんは「東学」を知っていますか？「朝鮮で、東学という宗教を信じている農民たちが起こした反乱で、日清戦争のきっかけとなったんだっけ？」という記憶がある方もおられるでしょう。それでは、なぜ東学の農民たちは蜂起したのでしょうか？

世界一美味しい全州（チョンジュ）ビビンバ

日清戦争の授業は「ビビンバ」の写真から始めます。「これは？」「ビビンバ！」「どうやって食べるの？」（一斉に混ぜる仕種をする生徒たち。最近、韓国料理は生徒たちにも人気です）「よく知っているのね。この写真のビビンバは、世界一美味しいビビンバなの」と言って、朝鮮半島の地図で全州を示します。

全州は、朝鮮の米どころです。私が訪ねたときも、いちめんの田んぼに稲穂が揺れ、収穫された米が天日干しされていました。

二度にわたる東学農民軍の蜂起

ところが、この豊かな全州から利益を得ようと、悪徳役人が赴任してきます。日本人商人もやってきて、米を安く買ったとき、農民の生活は疲弊していきます。そのような中で「人は平等」「悪政を改めさせる」ことを掲げた東学の教えに人びとは心を寄せます。

1894年、全琫準（チョンボンジュン）をリーダーとした東学農民軍が全羅道（チョルラド）の首府である全州を占領します（第一次蜂起）。朝鮮政府が、農民軍鎮圧のための派兵を清に要請すると、日本は「居留民の保護」を口実に軍隊を朝鮮に出動させます。この事態を見た全琫準は朝鮮政府と和解し（全州和約）、農民たちは故郷の村に帰ります。

朝鮮政府は、日清両軍に兵の引きあげを要請しますが、両軍は引きあげず、日本軍は朝鮮王宮を占領し、日本の言うことをきく大院君を政権に付けます。これを知った東学農民軍は、今度は日本軍と朝鮮政府軍を相手に再び蜂起します（第二次蜂起）。この時



参礼（サムレ）の東学農民群像

の蜂起は、「命がけの武力蜂起を支える地域農民を含めれば、数百万の一斉蜂起」（井上勝生『明治日本の植民地支配—北海道から朝鮮へ』岩波書店）でした。

広島の本営は三個中隊の派遣を命じ「東学農民をことごとく殺戮せよ」との指令を出します。これに関わったのは、明治の元勳とされる井上馨と伊藤博文です。日清戦争で、いちばん戦死者が多かったのは朝鮮でした。東学農民軍は、スナイドル銃と火縄銃という圧倒的な武力の差のため、各地で戦闘を続けながら最後は珍島（チンド）まで逐われます。

北大で発見された東学農民の髑髏（どくろ）

1995年に、北海道大学文学部の研究室で、「東学党首魁」（東学のリーダー）と書かれた髑髏が発見されました。北大の前身である札幌農学校出身者が、珍島で「採取」して寄贈したものが放置されていたのです。北大文学部の心ある方々が韓国から代表団を迎え、丁重な奉還式が行われました。このことをきっかけとして、日韓の研究者の交流と東学農民軍の歴史研究が急速に進みました。

戦争を考える時、とすると「明治の日本は良かったが、その後おかしくなった」ととらえられがちです。日清戦争の真実を知るとは、植民地責任を問うための大切な視座ではないでしょうか。



読者の声



クラウドファンディングに協力してくださった支援者の皆さまからのメッセージです。すべての声を載せたいところですが、紙幅の都合で一部のみ掲載です。ご容赦ください。

- ・歴史嫌いだった私が、素晴らしい教科書に出会い、歴史を学び直しています。でも、嫌いだったのは反省なく戦争を美化する教科書にも責任があったのではないかと今では考えられます。嬉しい学びを拡げたいです。応援しています。
- ・子どもの頃、あまり学校と相性が良なくて、教科書は試験の一週間前から各教科を頭に叩き込むもので、それでずっと学校生活をしのいできました。今、地域の自主夜間中学とか学びのサークルで学び舎の教科書を皆さんと読み合わせる機会があって、改めて「人間の歴史」と出会っています。
- ・千葉市の小さなカフェの社会人の学びの場で、学び舎教科書に出会いました。大人にとっても、実に「心で感じる」「自分の頭で考える」素敵な教科書です。たくさんの方に手に取ってほしいし、地域の図書館においてほしいです。
- ・学生時代、歴史は大嫌いでした。今は学習することがとても楽しいです。
- ・テストのために暗記する歴史ではなくて、現在の社会をよりよく理解するための学びとなることを期待しています。希望を持って未来を変えていく力を得られる教科書。
- ・これからの社会に必要なのは、人の声に耳を傾け、自分の思いを伝え、みんなと一緒に考える力。未来の子どもたちには、自国中心主義ではなく、誰もが幸せに生きていける豊かな社会を思い描いてほしいと願いを込めて。
- ・子どもたちに、歴史を学ぶ意欲をかりたて、未来への希望と生きる勇気をもたらすこの教科書を応援します。
- ・私は 1934 年生まれで戦争が終わった時には国民学校の 5 年生。教科書に墨を塗った年代です。水を吸った教科書はブクブクに膨れて気持ち悪かった。新制中学ではしばらくの間、机も椅子も教科書もノートもありませんでした。子どもたちに良い教科書を届けて下さい。



- ・戦後の民主化された教育を受けた世代として歴史認識を巡る昨今の動きに危機感を持っています。考え方はいろいろあっていいけれど、子どもたちには自分が感じた意見を自由に発言できる社会であってほしい。
- ・『つどいの樹』楽しみにしています。
- ・ウィルタ民族…の記述に感動しました。
- ・ぜひ教科書を出し続け 1 人でも多くの中学生の手に。市民の学習会のテキストとしても最高。
- ・私が勤務する地区で採用されているのは他社の教科書ですが、学び舎の教科書は個人で購入し、大いに授業の参考にさせてもらっています。
- ・高校社会科の授業で、資料として一部を使わせて頂いております。生徒からこの教科書は面白い、この教科書で勉強したかった、もっとコピーがほしいなどの声が毎年何人も寄せられる教科書です。新しい教科書の発行を心から楽しみにしています。
- ・戦争の無い人生を次の世代に手渡したい。世界でまだ生々しい紛争のニュースが絶えませんが、これからの時代を担う若者達が自分自身で歴史を見つめ、自分の頭で考える力を身に付けることで、一歩ずつ近づいていけると信じています。

表紙の答え：①田んぼの水は、多摩川の水です。ただし、多摩川を少し遡って、田んぼの面より高いところ＝約 1km 上流＝から取水する水路が必要。②写真の水路の水は、私の足下に見えるブロックで堰をつくり水位を上げる。



学ぶ会からのお知らせ



●クラウドファンディング、1000万円をめざして最後の努力を。

クラウドファンディングを5月3日に始めました。おかげさまで皆さまから暖かいご支援をいただき、8月2日に700万円を超えました。心から御礼申し上げます。クラウドファンディングは8月30日23時59分で終了します。最終目標は、教科書作成に必要な1000万円の達成です。クラウド・カンパ用の振込用紙を同封いたします。ぜひお知り合いの方に声をかけて広げていただければありがたく存じます。最後のご支援をよろしくお願いいたします。

●学ぶ会全体会は9月20日（月・祝）にオンラインで行います。

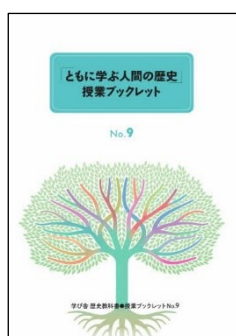
一般社団法人「学ぶ会」事業報告―第11期総括と第12期方針案―の冊子を同封いたしました。昨年は実施できませんでしたが、今年は全体会をオンラインで行います。活動報告、今期総括と来期方針、市民の学習会報告、採択校からの授業報告、講演は大日方純夫さん（コアアドバイザー）の「コロナ禍のなかで『自由民権』を考える」を予定しています。参加申し込みの方法などは同封のチラシをご覧ください。

◆A2会員の方に振込用紙を同封しました。

学ぶ会は、昨年任意団体から一般社団法人に変わり、この8月から通算で第12期に入ります。一般社団法人となった時に、コースと会費を新たに設定し、登録をしていただきました。A2のコースの方には、この会報に第12期の振込用紙（A2会費用）を同封させていただきました（すでに第12期の分を納入してくださった方と8月1日以降に入会された方には入れていません）。お手続きをして継続してくださいますようお願いいたします。

◆授業ブックレット第9号発売中。

「ともに学ぶ人間の歴史」授業ブックレット No.9



A5判 700円＋税
ご注文は学び舎へ

●武州世直し一揆の授業プランを考える ●若杉 温

「打ちこわしを暴力として否定する生徒たちなら、世直し一揆も同じように非難するのだろうか？」ここからスタートした武州世直し一揆の具体像に迫る授業プラン。

●中学生とともに学んだ3・1運動 ●小林優香

様々な視点からの資料を生徒に示し、中学生たちが考えを出し合った授業実践。

●第五福竜丸事件から広がる視野 ●黒田貴子

今年3月に亡くなった大石又七さんの人生をたどりながら、生徒と共に考える。

●コロナ禍で、コロナ後の教科書について考える ●小川輝光

歴史教育は対話の時代へ。『ともに学ぶ人間の歴史』での実例を豊富に紹介。



一般社団法人
事務所住所
メールアドレス
ホームページ
編集・発行
タイトルDesign

子どもと学ぶ歴史教科書の会（略称「学ぶ会」）
〒190-0022 東京都立川市錦町3-1-3-605
manabukai@mbm.nifty.com
http://www.manabisha.com
一般社団法人「学ぶ会」会報『つどいの樹』編集委員会
株式会社久保田デザイン工房

